

ステドール 数学の歴史

三浦 伸夫 (神戸大学名誉教授) 訳

四六判 160 ページ 本体予価 1,800 円 ISBN 978-4-621-30485-3

2020 年 1 月刊行予定 指定配本締切 12/20

斬新な視点でたどる、歴史としての数学

名著として世界的に高い評価を受けている『Oxford数学史』の編者による、新しいスタイルの数学史です。

過去の数学が現代数学にどう影響を及ぼし発展してきたか、といった専門的な内容ではなく、広く人類の歴史の中で数学がどのような存在であったか、歴史学の一分野として数学史はどうあるべきか、といった視点で書かれていることが類書にはない最大の特長と言えます。

数学史における様々なエピソードを取りあげている一方、数学的内容にはあまり触れていないため、文系の読者でも読み進められます。数学に関心のある中学生～社会人から、数学を専門とする学生や研究者まで幅広い読者層に新鮮な知見を提供するユニークな書です。



NOW PRINTING

【目次予定】

第1章 数学：神話と歴史

フェルマとフェルマの定理／象牙の塔の歴史／飛び石の歴史／エリートの歴史

第2章 数学とは何か、そして数学者とは誰なのか？

算の意味を辿る／「数学」の意味の跡をたどる／数学とは何か？／数学者とは誰なのか？

第3章 いかにして数学的アイデアは広まるのか？

脆弱性、希少性、曖昧性／時間を通しての保存／距離を超えた保存／人々のことを忘れない

第4章 数学を学ぶ

バビロニアの教室／カンブリアの教室／少女たち／独学者たち／一体なぜ数学を学ぶのか？

第5章 数学的な暮らし

パトロン体制の類型／経済的支援からプロ意識へ／学術機関、出版物、会合

第6章 数学の内側に入る

再解釈／誰が最初…？／物事を正す

第7章 発展していく数学史記述法

新刊注文書 丸善出版発行 新刊委託

指定配本数

貴店番線印

ステドール 数学の歴史

三浦 伸夫 (神戸大学名誉教授) 訳

四六判 160 ページ 本体予価 1,800 円

ISBN 978-4-621-30485-3

2020 年 1 月刊行予定 指定配本締切 12/20

冊